

戦略的対外発信拠点「ジャパン・ハウス」事業の実施

【令和5年度予算案額:4,765百万円の内数】

「戦略的対外発信の強化」の必要性の高まり

その一環として、主要国において**対外発信拠点**が必要。



- ・自民党外交再生戦略会議 中間取りまとめ(2014年5月)
- ・骨太方針2014(同年6月)
- ・自民党「外交力の飛躍的強化を求める決議」(同年11月)

「**ジャパン・ハウス**」をサンパウロ、ロンドン及びロサンゼルスに設置。(2015年/平成27年度から予算措置)

ジャパン・ハウスの機能



講演、セミナー等



展示



書籍、ウェブ等



物販



レストラン

ジャパン・ハウスの3つの工夫

公的機関の機能（文化・観光）を集約し、日本に関する様々な情報がまとめて入手できる**ワンストップ・サービス**の提供。

カフェ・レストラン、ショップなどの商業スペースを設けるとともに、民間の活力、地方の魅力なども積極的に活用した**オールジャパンでの発信。**

専門家の知見を活用しつつ、**現地のニーズ**にきめ細かく対応し、現地の人々の共感を呼ぶよう工夫した発信。

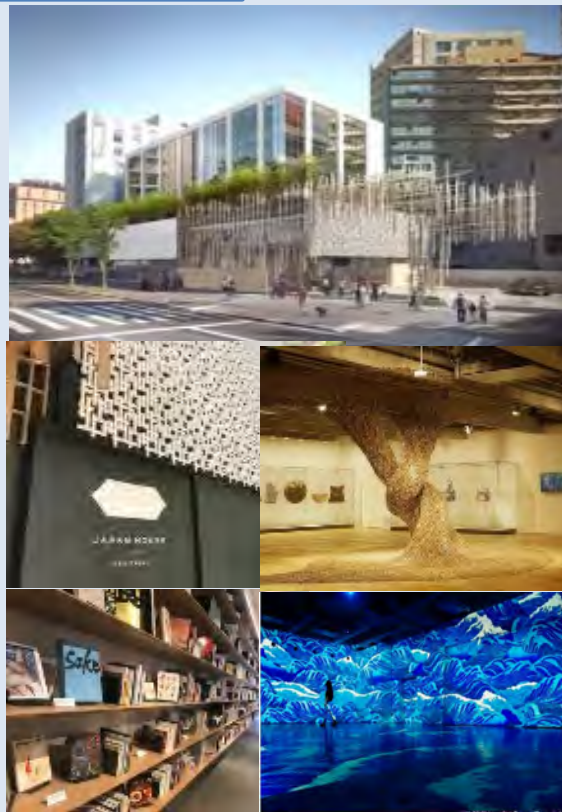
日本の多様な魅力、正しい姿を含む政策・取組の発信を通じ、これまで必ずしも日本に関心がなかった人々を含む幅広い層を惹きつけた上で、**親日派・知日派の裾野を一層拡大**させていく。

戦略的対外発信拠点「ジャパン・ハウス」事業の実施

- コロナ禍が改善した令和3年5月1日以降、一部制限つきではあるが、3館とも開館しており、徐々に通常の運営状態に戻つつある。
- コロナ禍においてはオンライン発信を強化したが、現在ではリアル展示とオンライン発信とのハイブリッドを駆使。
- 来館者の人数は、令和3年度はコロナ前(令和元年度)の4割程度まで回復。

サンパウロ

平成29年4月開館



ショッピングモールや美術館等が立ち並ぶ、サンパウロ中心のパウリスタ通りに開館。令和4年12月末時点の来館者数は約277万人。パウリスタ通りの主要施設として定着している。

ロンドン

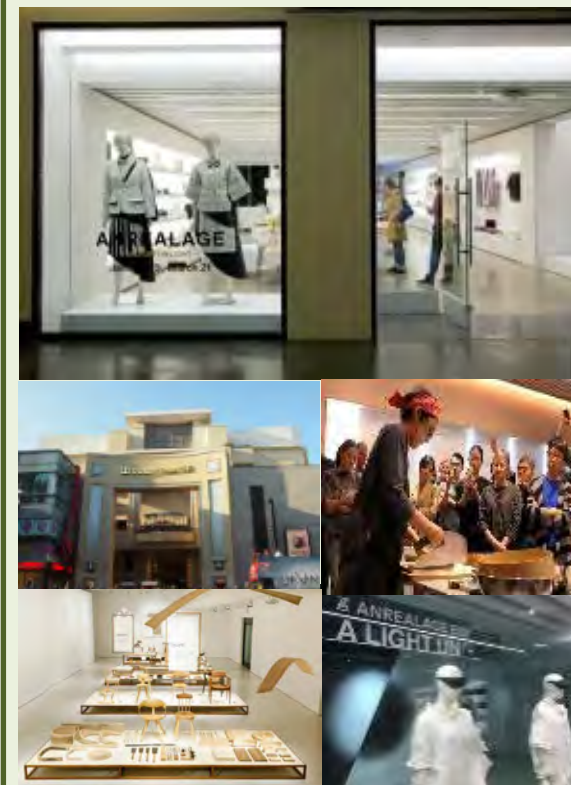
平成30年6月開館



多くの店舗が建ち並ぶ繁華街であるケンジントン地区に所在。平成30年9月の開館記念行事には英国王室からケンブリッジ公爵殿下、我が国から麻生副総理が出席。令和4年12月末時点の来館者数は約139万人。

ロサンゼルス

平成30年8月開館
(平成29年12月部分開館)



アカデミー賞授賞式会場のドルビー・シアター等が入居するハリウッド中心地の施設に所在。令和4年12月末時点の来館者数は約57万人。

在外公館文化事業

在外公館が管轄地域における対日理解の促進や親日層の形成を目的として、外交活動の一環として主催(共催)する日本文化紹介事業。日本伝統文化(茶道、華道、書道、折り紙等)のレクチャー・デモンストレーションやワークショップ、日本映画上映会、邦楽公演(和太鼓、三味線等)、武道のレクデモ、日本語弁論大会等を企画・実施。近年は、アニメ・マンガ等のポップカルチャー紹介や和食のPR等も積極的に奨励。



中南米9公館 「書で中南米スペイン語圏をつなぐ」 (令和4年1~2月)

- 中南米スペイン語圏に所在する9公館の連携による横断型オンライン事業を開催。
- 公館所在地以外のアジア、ヨーロッパ、アフリカ等、計40ヶ国・地域からも参加申し込みがあり、29か国から参加があった。
- 地理的制約を受けないオンラインの特徴を活かし、国境を越えた対日理解促進、一体感の醸成ができた。

コルカタ(インド) 「国際文芸祭における日本パビリオンで の日本紹介事業」 (令和4年2~3月)

- 大型国際文芸祭に日本パビリオンを出展。各種日本文化関連プログラムを実施し、日本文化を複合的、集中的に紹介した。来場者数はこのべ70,000人に上った。
- 多くの一般市民が来場、中でも10代から20代の若者が多く、今後を担う世代へ日本及び日本文化に関する効果的な宣伝ができた。

ワシントンD.C.(米国) 「コスプレ衣装展」 (令和4年9~11月)

- 在米国日本大使館広報文化センターにて、「世界コスプレサミット」の歴代アメリカ代表衣装の展示を実施
- 併せて元世界コスプレサミット・アメリカ代表のダイアナ・トリン氏によるレクチャーを開催。
- 700名を超える来場者があり、若年層や30歳以下のヤング・プロフェッショナル層を中心に対日関心の喚起、親日層の開拓に大きく寄与した。

国際交流基金(文化芸術交流事業)

□ 舞台公演・美術展・日本映画上映会等の実施又は支援、人物交流、情報発信等

豊かで多様な日本の文化や芸術を、様々な形で世界各地に向けて発信。文化芸術を通じて日本のこころを世界の人々に伝え、言葉を越えた共感の場を創り出し、また、共に創造する喜びを分かち合っ、人と人との交流を深める。

～ デジタル技術を用いた文化発信への取組例 ～



舞台公演オンライン配信プロジェクト
STAGE BEYOND BORDERS



国際交流基金巡回展
短編動画配信シリーズ



JF デジタルコレクション